

40歳未満の勤務助産師の職務満足度調査 ～ 病院・診療所・助産所の比較 ～

Survey of job satisfaction among working midwives younger than 40 years —comparison of hospitals, clinics, and birthing centres

古賀 裕子, 江幡 芳枝*

*日本保健医療大学

Yuko Koga, Yoshie Ebata*

*Japan University of Health Sciences

要 約

【目的】40歳未満助産師の就業場所と職務満足度との関連を明らかにする。

【方法】研究デザインは職務満足度を従属変数とする相関関係型量的研究。東京、神奈川の病院・診療所・助産所勤務の40歳未満の助産師423名に無記名自記質式質問紙調査を郵送法で実施。期間は平成23年9月6日～30日。職務満足度調査の内容は労働条件・人間関係・業務内容・やりがいと自律の4つをカテゴリーとした。国際医療福祉大学の倫理委員会で承認を得た。

【結果】病院142人診療所26人助産所31人計199人の有効回答を分析(回答率47%)。職務満足度は助産所、診療所、病院勤務助産師の順に高かった。また、カテゴリー別でみると、人間関係(相関比 η 0.553)、業務内容(相関比 η 0.735)、やりがい(相関比 η 0.605)で、関連性がみられ、平均点はすべてにおいて助産所が高かった。

【考察】施設毎で職務満足度に相違があり、その要因に自律した助産業務が関係することから、助産師が主体的に働くための業務の見直しが必要であると考えられる。

キーワード:職務満足, 助産師, 病院, 助産所

はじめに

堀内¹⁾らは妊娠・分娩・産褥期のすべてのケアの得点が高いのは助産所と述べ、村上²⁾は助産所のお産は産婦にとっても満足度が高いと述べている。また、毛利³⁾は「満足なお産」や「主体的なお産」には産婦に対しての助産師の関わりが影響していると述べ、長谷川ら⁴⁾は助産師業務の中でも特に分娩に対してやりがいを感じている助産師が多いと述べている。助産所勤務助産師は病院や診療所に勤務する助産師よりやりがい感が強く、職務満足度も高いのではないかと推測できる。

そこで職場によって職務満足度に差があるのではないかと、これからの助産師がもっともやりがいを感じながら働ける職場はどのようなところなのか、また、大

半の助産師が就業先を病院か診療所を選ぶ中、あえて、助産所を選ぶ20代、30代の助産師が散見されることに疑問に思った。そこで、平均初婚年齢や初産年齢は年々上昇し、まさに20代から30代の結婚、出産、育児と多忙である勤務助産師の職務満足度はどうなのか、その現状と就業場所と職務満足度との関係を研究することによって、今後、助産師の働きやすい環境づくりの一助になると考えた。

そこで40歳未満の勤務助産師に焦点をあて職務満足度と勤務場所の関連を調査することとした。

研究の目的

40歳未満の助産師の就業場所と職務満足度との関連を明らかにする。

研究の方法

1. 研究デザイン

職務満足度を従属変数とする相関関係型研究デザインである。

2. 研究対象者

病院、診療所、助産所で働く20代から30代の助産師、共通した地域性をもたせるため東京、神奈川県内で働いている助産師とした。

3. データ収集

郵送法による無記名自記質質問紙調査

4. 調査期間

平成23年9月6日～平成23年9月30日

5. 調査項目

対象者の属性等に関する質問23項目、職務満足度に関する質問51項目（①労働条件、②人間関係、③業務内容、④やりがい・自律の4つのカテゴリーに分かれている。）とした。

リッカートスケールを使用し回答項目は「とても思う」を5点～「まったくそうは思わない」を1点として、間隔尺度5俵法として点数化した。（1～5点）

6. 調査方法

対象となる施設に研究の協力依頼文と調査票を郵送し協力が得られる意志を承諾書の返送をもって確認し、その後、質問紙を各施設に依頼された部数郵送をした。調査票の回収は無記名で返信用の封筒に記入した調査票を入れ研究者あてに各自郵送していただいた。

7. 分析方法

統計的分析には、記述統計、Pearsonの相関係数および相関比イーターによる分析を用いた。統計ソフトはSPSS for Windowsと「よくわかる！すぐ使える統計学（検定CD）」：財団法人 厚生統計協会を使用した。

相関比イーターは、質的変数と量的変数の相関（0～1）であり群間比較と考える場合は群間差の大きさを示す。なお、本研究では相関または群間差の有無は0.35を基準とした。ただし、相関が認められたとしても因果関係の存在は必ずしも意味していない。

倫理面への配慮

本研究は、国際医療福祉大学の倫理委員会で承認を受けた。（承認番号：11-69）

研究結果

研究の承諾を得た施設は241施設のうち78施設（32.4%）であり、その施設に調査票を配布した。施設の内訳は病院が26施設、診療所が5施設、助産所が16施設であった。調査票の配布数は423部、そのうち郵送による回収で202名から回答が得られ3名は無効とし199名を有効回答とした。（回収率47%）。

1. 対象者の属性・背景

- 1) 年齢：回答者の年齢は平均 31.9 ± 4.43 歳であった。
- 2) 婚姻状況：回答者の婚姻状況は既婚者92人（46.2%）、未婚者が107人（53.8%）であった。
- 3) 子どもの有無：子どもがいる人は、68人（34.2%）、いない人は、131人（65.8%）であった。
- 4) 勤務場所：勤務場所は病院が142人（71.4%）、診療所26人（13.0%）、助産所31人（15.6%）だった。
- 5) 助産師としての経験年数：助産師としての経験年数は6年が23人（11%）、8年が20人（10%）、7年が18人（9%）と多く、合すると全体の3割を占めていた。

6) 出生証明者氏名欄の職種

医師と回答した人は全体で134人（67.3%）、施設別の内訳は、病院142人中118人（83.0%）、診療所26人中13人（50%）、助産所31人中0人（0%）、助産師と回答した人は全体で53人（26.6%）、施設別の内訳は、病院142人中13人（9.1%）、診療所26人中12人（46.2%）、助産所31人中28人（90.3%）、助産師と医師の両方と回答した人は、全体で9人（4.5%）施設別の内訳は、病院142人中8人（5.6%）、診療所26人中1人（3.8%）、助産所0人（0.0%）、であった。

7) 正常分娩における産科医師立ち会いの有無

立ち会わないと回答した人は、全体で37人（18.6%）で施設別の内訳は、病院142人中5人（3.5%）、診療所26人中1人（3.8%）、助産所31人中31人（100%）、必ず医師が立ち会おうと回答した人は、全体で148人（74.4%）、施設別の内訳は、病院142人中128人（90.1%）、診療所26人中20人（7.7%）、助産所31人中0人（0.0%）、医師が立ち会うことがあると回答した人は、全体で14人（7.0%）で、施設別の内訳は、病院142人中9人（6.3%）、診療所26人中5人（19.2%）、助産所31人中0人（0.0%）、であった。

8) 病院における院内助産所の有無

院内助産があると答えた人は35人（24.6%）、ないと答えた人は107人（75.4%）であった。

2. 勤務助産師の職務満足度

1) 職務満足度と各変数との関連

職務満足度を得点化し各変数との関連性の分析を行った結果、相関比 η または相関係数から関連性がみられたものは病院、診療所、助産所全体で、1) 就労場所、2) 雇用形態、3) 年間の分娩件数、4) 出生証明者氏名欄の職種、5) 助産師だけで正常分娩を行うかどうかの5項目であった。(表1)

2) 職務満足度と施設別勤務助産師との関連

「勤務場所別・カテゴリ別(労働条件、人間関係、業務内容、やりがい・自律)職務満足度平均」は、病院、診療所、病院のカテゴリ別平均点からさらにそれらを合計し3で割ったものを全体の平均点とした。結果は、「やりがい・自律」(3.80点)、「人間

関係」(3.78点)、「業務内容」(3.64点)、「労働条件」(3.25点)であった。(表2.3.4.5)

現在の勤務場所が助産所と答えた人の総合満足度は4.28点、診療所と答えた人は3.58点、病院と答えた人は3.00点で助産所と答えた人の総合満足度が最も高かった。カテゴリ別でみると、人間関係(相関比 η 0.553)、業務内容(相関比 η 0.735)、やりがい(相関比 η 0.605)で、関連性がみられ、平均点はすべてにおいて助産所が高く、人間関係4.41点、業務内容4.51点、やりがい4.59点であった。(表6)

3) 職務満足度と出生証明者氏名欄の職種との関連

出生証明者氏名欄の職種と職務満足度は関連性(相関比 η 0.575)があり、出生証明者氏名欄の職種が助産師と答えた人の総合満足度は3.94点、医師と助産師と

表1 「職務満足度の平均点との相関」：全体

	項目	総合	福利厚生	人間関係	業務内容	やりがい	備考 相関の種類
			相関(量)	相関(量)	相関(量)	相関(量)	
自分自身のこと	1 年齢	0.167	0.071	0.169	0.174	0.147	相関係数
	2 結婚の有無	0.084	0.112	0.099	0.078	0.016	相関比 η
	3 子どもの有無	0.124	0.122	0.115	0.064	0.135	相関比 η
	4 経験年数	0.210	0.145	0.238	0.191	0.205	相関係数
	5 現在働いている施設	0.659	0.322	0.553	0.735	0.605	相関比 η
	6 職位	0.056	0.041	0.070	0.104	0.111	相関比 η
	7 常勤・非常勤	0.379	0.169	0.347	0.379	0.375	相関比 η
	8 夜勤の有無	0.036	0.014	0.041	0.023	0.045	相関比 η
	9 直接分娩介助数	0.119	0.023	0.126	0.100	0.146	相関係数
	10 助産所での実習の有無	0.096	0.037	0.063	0.113	0.101	相関比 η
施設のこと	11 分娩件数	-0.416	-0.145	-0.305	-0.538	-0.372	相関係数
	12 助産師の人数	-0.072	0.055	-0.093	-0.121	-0.063	相関係数
	13 出生証明書の記載	0.575	0.261	0.662	0.549	0.549	相関比 η
	14 助産師だけで分娩を行っているか	0.656	0.325	0.562	0.701	0.636	相関比 η
	15 助産師と看護師の区別	0.267	0.252	0.261	0.271	0.201	相関比 η
	16 助産師として採用されたか	0.067	0.060	0.115	0.026	0.045	相関比 η

表2 勤務場所・カテゴリ別(やりがい・自律)職務満足度平均

	項目	全体の平均点	病院の平均点	診療所の平均点	助産所の平均点
やりがい・自律	1 助産師になって良かったと思える瞬間がたくさんある。	4.28	3.80	4.23	4.81
	2 産婦が満足するケアを常に目指すことができる。	3.96	3.28	3.88	4.71
	3 助産師としての誇りを持ち続けることができる。	3.93	3.27	3.92	4.61
	4 助産師としての充実感を常に感じることができる。	3.93	3.28	3.77	4.74
	5 助産師としての存在価値を見いだすことができる。	3.88	3.23	3.77	4.65
	6 常に向上心を持ち続けることができる。	3.73	2.96	3.77	4.45
	7 実践能力を身につけることが十分にできる。	3.62	3.00	3.50	4.35
	8 自分の分娩介助技術を大いに発揮できる。	3.47	2.70	3.54	4.16
	9 正常なお産は助産師のみで行うことができる。	3.43	2.14	3.32	4.84
カテゴリ別平均点		3.80	3.07	3.74	4.59

表3 勤務場所・カテゴリ別（人間関係）職務満足度平均

	項目	全体の平均点	病院の平均点	診療所の平均点	助産所の平均点
人間関係	1 忙しい時、お互いに助け合い協力し合っている。	4.23	3.81	4.00	4.87
	2 自分が周囲のスタッフに常に支えてもらっているという実感がある。	4.15	3.91	3.69	4.84
	3 自分には尊敬できる上司または同僚がいる。	4.12	3.67	3.77	4.94
	4 同僚は子育てに関して理解を示してくれる。	4.04	3.56	3.85	4.72
	5 上司は子育てに関して理解を示してくれる。	3.95	3.27	3.85	4.72
	6 なんでも相談できる雰囲気が常にある。	3.94	3.33	3.92	4.58
	7 話し合いの場で意見を言いやすい雰囲気が常にある。	3.84	3.25	3.77	4.48
	8 この職場は新採用者がすぐに溶け込みやすい雰囲気がある。	3.67	3.35	3.15	4.52
	9 スタッフ（看護師、助産師）はリーダーを中心によくまとまっている。	3.62	3.28	3.23	4.34
	10 必要以上に細かく監督され指示されることが少ない。	3.60	3.18	3.62	4.00
	11 医師は助産師の行っていることを理解し評価している。	3.36	2.85	3.62	3.63
	12 医師（助産所なら院長）から信頼されていると感じている。	3.34	2.68	3.38	3.97
	13 助産師と医師（助産所に勤務している人は嘱託医療機関の医師とお考えください。）の間に十分なチームワークがとれている。	3.33	2.77	3.46	3.75
	カテゴリ別平均点	3.78	3.30	3.64	4.41

表4 勤務場所・カテゴリ別（業務内容）職務満足度平均

	項目	全体の平均点	病院の平均点	診療所の平均点	助産所の平均点
業務内容	1 妊娠、分娩、産褥期と継続してかかわることができる。	4.02	3.32	4.12	4.61
	2 分娩にじっくりかかわることができる。	3.98	2.97	4.15	4.81
	3 産後の母乳育児や乳房ケアを充分行うことができる。	3.92	3.20	3.92	4.65
	4 できるだけ医療介人の少ないいわゆる自然に近いお産を介助することができる。	3.91	2.54	4.35	4.84
	5 入院中の産褥のケアに時間をかけて充分行うことができる。	3.84	3.06	3.85	4.61
	6 家族の立ち合いが自由にできる家庭的な雰囲気のお産を介助することができる。	3.83	2.26	4.38	4.84
	7 保健指導に時間をかけて充分に行うことができる。	3.80	2.99	3.81	4.61
	8 よりよいケアをするためにスタッフ同士が話し合う十分な時間がある。	3.79	2.89	3.88	4.61
	9 退院してからもお母さんと赤ちゃんに関わっていくことができる。	3.70	2.76	3.73	4.61
	10 フリースタイル分娩を介助することができる。	3.61	1.92	4.19	4.71
	11 妊婦検診にじっくり時間をかけて行うことができる。	3.57	2.24	3.88	4.58
	12 妊娠前から、妊婦だけでなくその家族にも関わることができる。	3.55	2.54	3.69	4.42
	13 自分がやりたいと思っているケアを十分に行うことができる。	3.49	2.65	3.38	4.45
	14 地域とのつながりをお母さんと赤ちゃんを通じて実感することができる。	3.20	2.23	3.00	4.35
	15 分娩介助をたくさん行うことができ、技術の習得に役立つ。	3.02	2.64	2.85	3.58
	16 ペーパーワーク（記録・事務の仕事等）が少ない。	2.94	2.05	2.92	3.84
	カテゴリ別平均点	3.64	2.64	3.76	4.51

表5 勤務場所・カテゴリ別（労働条件）職務満足度平均

	項目	全体の平均点	病院の平均点	診療所の平均点	助産所の平均点
労働条件	1 自宅から職場が近く通勤に便利である。	3.65	3.59	3.15	4.19
	2 連携病院との連携がしっかりしている。	3.61	3.07	3.65	4.10
	3 全般的に看護管理者は日常の諸問題や手順について職員と相談する。	3.55	3.35	3.31	4.00
	4 希望する休日がとりやすい。	3.55	3.26	3.35	4.03
	5 助産師の人数が十分に足りている。	3.37	2.82	3.85	3.45
	6 施設の立地条件が良い（買い物が便利、公共の施設が近くにあるなど）。	3.27	2.97	3.31	3.52
	7 看護職員は管理の決定に参加するための機会がたびたびある。	3.20	2.80	3.27	3.55
	8 子育てしやすい環境にあるため、仕事と子育ての両立がしやすい。	3.20	2.76	2.88	3.97
	9 残業が比較的少ない。（仕事量がちょうどよい）	3.16	2.79	3.31	3.39
	10 教育体制（研修や勉強会等）が整っていて勉強する機会が常にある。	3.13	3.24	3.08	3.06
	11 緊急時に素早く対応できるスタッフの人数と医療器材が揃っている。	3.01	3.02	2.81	3.19
	12 医者的人数が十分に足りている。	2.82	2.75	2.92	2.80
	13 現在の給料に満足している。	2.74	2.46	2.50	3.26
	カテゴリ別平均点	3.25	2.99	3.18	3.58

表6 勤務場所別職務満足度（平均点）

	労働条件	人間関係	業務内容	やりがい	総合満足度
病院	2.99	3.30	2.64	3.07	3.00
診療所	3.18	3.64	3.76	3.74	3.58
助産所	3.58	4.41	4.51	4.59	4.28

答えた人は3.59点、医師と答えた人は3.00点で、助産師が最も高かった。カテゴリ別でみると、人間関係（相関比 $\eta 0.662$ ）、業務内容（相関比 $\eta 0.549$ ）、やり

がい（相関比 $\eta 0.549$ ）で関連性がみられ、平均点はすべてにおいて助産師が高く、人間関係4.04、業務内容4.11、やりがい4.22であった。（表7）

表7 出生証明者氏名欄の職種別職務満足度（平均点）

	労働条件	人間関係	業務内容	やりがい	総合満足度
助産師	3.40	4.04	4.11	4.22	3.94
医師	3.00	3.31	2.64	3.06	3.00
医師と助産師	3.26	3.74	3.59	3.75	3.59

4) 職種満足度と正常分娩における産科医立会いの有無との関連

正常分娩における産科医立会いの有無と職務満足度は関連性（相関比 $\eta 0.656$ ）があり、産科医が立ち会わないと答えた人の総合満足度は4.25点、医師が立ち会うことがあると答えた人は3.72点、必ず医師が立ち会うと答えた人は3.01点で、立ち会わないと答えた人の職務満足度が最も高かった。カテゴリ別でみると、人間関係（相関比 $\eta 0.562$ ）、業務内容（相関比 $\eta 0.701$ ）、やりがい（相関比 $\eta 0.636$ ）で関連性がみられ、平均点はすべてにおいて正常分娩に産科医が立ち会わないと答えた人が高く、人間関係4.30、業務内容4.44、やりがい4.56であった。（表8）

表8 正常分娩の産科医の立会いの有無と職務満足度（平均点）

	労働条件	人間関係	業務内容	やりがい	総合満足度
立ち会わない	3.69	4.30	4.44	4.56	4.25
立ち会うことがある	3.03	4.01	3.79	4.06	3.72
必ず医師が立ち会う	3.02	3.29	2.68	3.05	3.01

5) 職務満足度と病院における院内助産所の有無との関連

院内助産所の有無と職務満足度は関連性（相関比 $\eta 0.533$ ）があり、病院勤務助産師で院内助産を行っている人と答えた人の総合満足度は3.58点、行っていないと答えた人の総合満足度は2.91点で、院内助産を行っている人と答えた人の職務満足度が高かった。カテゴリ別にみると、労働条件（相関比 $\eta 0.441$ ）、人間関係（相関比 $\eta 0.446$ ）、業務内容（相関比 $\eta 0.60$ ）、やりがい・自律（相関比 $\eta 0.533$ ）で関連性がみられ、平均点はすべてにおいて院内助産を行っている人と答えた人が高く、労働条件3.17点、人間関係3.78点、業務内容3.50点、やりがい・自律3.88点であった。（表9）

表9 病院における院内助産所の有無と職務満足度（平均点）

院内助産の有無	労働条件	人間関係	業務内容	やりがい	総合満足度
やっている	3.17	3.78	3.50	3.88	3.58
行っていない	2.96	3.23	2.51	2.95	2.91

考 察

1) 勤務場所と職務満足度について

病院・診療所・助産所において職務満足度が異なつたことは以下のようなことが考えられる。先行研究では、「助産所でのお産は産婦にとっても満足度が高い²⁾」「産婦にとっての満足なお産や主体的なお産には産婦に対しての助産師の関わりが影響している³⁾」「助産師業務の中でも特に分娩に対してやりがいを感じている助産師が多い⁴⁾」「仕事に誇りを持つことはやりがいにもつながりさらに、職務満足につながる⁵⁾」などといわれている。助産所には医師は常駐しておらず正常なお産は助産師だけで行っている。これらことから、助産所勤務助産師は医師の指示なしで業務を遂行でき、そして、対象者に満足してもらえることが、助産師としての誇りであり、仕事の達成感ややりがいにつながっているのではないかと考えられる。秋月ら⁶⁾は病院勤務助産師の仕事のやりがいや満足度を上げるために必要なことに「患者とゆっくり向き合えること」「妊婦の希望に添えること」を挙げている。しかし、総合病院では8割が混合病棟で、さらに分娩件数も多く、ハイリスク妊産婦からローリスクの産婦まで様々な対象が存在していることから、産婦にゆっくり向き合えない状況が考えられる。本調査結果から、助産所に勤務している助産師は、家庭的な雰囲気の中で患者とゆっくり向き合える環境と時間があると思っている人が多いことが分かった。このことが助産所に勤務する助産師の職務満足度が高くなった要因の一つではないかと考えられる。本調査項目の「分娩にじっくり関わることができる」「助産師になって良かったと思える瞬間がたくさんある。」「産婦が満足するケアを常に目指すことができる。」「助産師として充実感を常に感じるができる。」で助産所に勤務している助産師は平均点が4.7以上の高い得点である。産婦に満足してもらえることが助産師の仕事にやりがいを感じるのだといえる。助産師としての力量を十分に発揮できることで仕事に対する達成感も感じることができると考えられる。

2) 出生証明者氏名欄の職種と職務満足度について

保健師助産師看護師法第三十九条2項に「分べんの介助または死胎の検案をした助産師は、出生証明書、死産証書又は死胎検案書の交付の求めがあった場合は、正当な理由がなければこれを拒んではいけない」と助産師が出生証明書の記載ができることが記載されている。しかし現状は、医師が記載すると答えた人が

67%いた。

出生証明書は、医師または助産師が分娩に立ち会った場合、その子がその母親から出生したことを証明する文書のことであり、出生証明書を記入することは、医師と同等の立場で正常分娩を行うことと同じ責任のある業務である。そしてやりがいのある業務として助産師としての達成感にもつながると考える。

出生証明書に名前を記載する行為は助産師自身にかかる責任の重さを感じるとともにその後の責任継続にもつながる。このようなことから出生証明書署名欄に助産師の名前を記載する職場は、助産師にとって主体的に業務に取り組み、また、他者に認められている実感や、やりがいを感じ、職務満足度の向上につながることを示唆された。

3) 正常分娩における医師の立会いの有無と職務満足度について

篠原⁷⁾は医師と助産師のお互いの関係性が良好であることが積極的に行動していくために必要であり医師に認められることの重要性を述べている。助産師として認められるためには知識や技術の習得が必要不可欠であるが、仕事を任されるようになった時の達成感と喜びは大きいことが考えられる。ゆえに、医師なしで正常分娩の介助を行うことは仕事のやりがいを感じることに繋がる。先行研究からもやりがいを感じることは職務満足に繋がると言われていることから職務満足が高い結果になったことが考えられる。

4) 病院における院内助産所の有無と職務満足度について

厚生労働省ホームページ⁸⁾より、院内助産とは「緊急時の対応ができる医療機関等において、正常経過の妊産婦のケア及び助産を助産師が自立して行うもの」と述べて推進し、平成20年に全国で31件であった院内助産所設置施設は平成24年に82件に達している。また、助産師外来設置施設は平成20年に273件であったが、平成24年には490件で院内助産所と助産師外来共に増加している。

院内助産は助産師が主体的に働ける職場であり、助産師ひとりひとりの十分な知識・技術が必要不可欠である。さらに、医師との信頼関係が良くなければならないことから、「人間関係」「業務内容」「やりがい・自律」の平均得点が高いという結果になったと考えられる。また、「院内助産を行うことは助産師にとって、専門性を高めることができ、助産師としての責任とやりがい、喜びを感じることができる」と言われている⁹⁾(厚生労働省医政局看護課)。ゆえに、仕事に対

してやりがいがあることは職務満足に繋がるといわれていることから院内助産を行っている施設の勤務助産師は総合満足度が院内助産を行っていない勤務助産師より高いという結果になったと考えられる。

正常経過の妊産婦のケア及び助産を助産師が自立して行うことは保健師助産師看護師法でも認められているが、実際は、医師の指示で働かざるを得ない状況の勤務助産師が多く、助産師としての力量を十分に発揮できていないのが現状である。また、北川¹⁰⁾は病院に勤務する助産師が、妊娠、出産、育児をしながら就業を継続していくための重要な要因は、助産師本人の高い仕事意欲と家族の理解・協力を前提に、育児と仕事の両立がしやすい職場環境であること・上司が理解してくれることと述べている。働き盛りの20代30代の助産師が高い仕事意欲をもって働くためには、自律した助産業務を行なえる職場環境であることと周囲の協力が大切であると考えられる。

日本看護協会助産師職能委員会では、助産所における妊産婦の満足の高い助産を病院や診療所に戻すためにはどうすべきかの検討を重ね、助産師が自律して働くシステム作りの普及に向けた活動を行っている。厚生労働省も「社会変化と医療制度改革」の検討を進めており、その一環として、産科医不足に伴う産科医療の閉鎖や看護師の内診問題、妊産婦のたらい回しによる死亡の現実を直視し、2007年より助産師の有効活用・院内助産普及への設備等の予算化に踏み切っている。このように今後、院内助産所が増える傾向にあることは助産師としての職務満足向上にもつながると示唆される。

結 論

職務満足度は、勤務する施設によって違いがあり、助産所に勤務する助産師が診療所や病院に勤務する助産師より高かった。その要因に、やりがいや自律が関係する助産業務があることが分かった。今後、病院や診療所で助産師が主体的に働くことができる業務内容の検討、改善、院内助産の普及が必要であることがこの研究から示唆された。

本研究の限界

本研究は、2県のみ結果であり、地域の特性が影響していることも考えられるため一般化することは難しい。今後は、調査対象を全国に広げていくことが必

要である。

今後の課題

現在、産科医療は、さまざまな問題を抱えているなか、今後、さらに助産師に対する期待は大きくなることが予想される。今回のアンケート項目をさらに見直し研究を深め、20代30代の比較的若い助産師が主体的に働ける職場はどのような条件が必要なのかを検討したいと考える。

謝辞

今回調査にご協力いただきました東京都と神奈川県
の病院、診療所、助産所の施設長をはじめ助産師の
方々に深く感謝申し上げます。
報告すべき利益相反はない。

引用文献

- 1) 堀内成子，島田啓子ら：出産を経験した女性が評価する妊産褥期のケアの質。日本助産学会誌，11(1)：9-16，1997。
- 2) 村上明美：自己の出産に十分満足したと評価した女性が出産の際に抱いた思い。日本赤十字看護大学紀要，15：23-23，2001。

- 3) 毛利多恵子：助産所と病院における分娩体験の比較。日本助産学会誌，8(2)：97-100，1995。
- 4) 長谷川文，村上明美：出産する女性が満足できるお産。母性衛生，45(4)：489-495，2005。
- 5) 餅田敬司：職務満足度調査から人材育成のあり方を模索する。立命館経営学，47(1)：185-212，2008。
- 6) 秋月百合，藤村一美：日本における病院勤務助産師のバーンアウトに関する研究。日本助産学会誌，21(1)：30-39，2007。
- 7) 篠原良子：日本における助産師の職務行動への影響要因。医療保健学研究，2：65-77，2011。
- 8) 公益社団法人日本医療機能評価機構，<http://jcqhc.or.jp/>（2011年8月アクセス可能）。
- 9) 厚生労働省医政局：院内助産所・助産師外来について，<http://www.mhlw.go.jp/shingi>（2009年11月1日アクセス可能）。
- 10) 北川良子：助産師の出産・育児と就業継続の関連要因。日本助産学会誌，24(2)：345-357，2010。
- 11) 石引かずみ，長岡由紀子ら：助産師の産科医師との協働に関する研究。日本助産学会誌，27(1)：60-71，2013。
- 12) 系統看護学講座：専門Ⅱ；母性看護学概論。医学書院。
- 13) 厚生労働省：平成20年衛生行政業務報告。

Survey of job satisfaction among working midwives younger than 40 years

–comparison of hospitals, clinics, and birthing centres

Yuko Koga, Yoshie Ebata *

*Japan University of Health Sciences

Abstract

(Purpose) The principal aim of the present study was to clarify the relationship between the workplace and the degree of job satisfaction among working midwives younger than 40 years.

(Methods) The study was designed as a correlational and quantitative study using the degree of job satisfaction as the dependent variable. An anonymous self-administered questionnaire was mailed to 423 midwives younger than 40 years who were working in hospitals, clinics, or birthing centres in the Tokyo Metropolis or Kanagawa Prefecture. The study period was from September 6 to 30, 2011. The content of the degree of work satisfaction survey was categorized into four categories: working conditions, human relationships, work duties, and sense of fulfilment and autonomy. The present study was approved by the institutional review board of the International University of Health and Welfare.

(Results) A total of 199 valid responses (hospitals: 142 responses; clinics: 26; birthing centres: 31) were analysed (valid response rate: 47%). The degree of job satisfaction among working midwives was highest in birthing centres, followed by clinics and then hospitals. Furthermore, an examination by category revealed a relationship between human relationships (correlation ratio: $\eta 0.553$), work duties (correlation ratio: $\eta 0.735$), and sense of fulfilment (correlation ratio: $\eta 0.605$); the mean score of all categories was highest for birthing centres.

(Discussion) Because there were differences in the degree of job satisfaction for each facility and autonomous midwifery work was a related factor, it is the authors' opinion that it is necessary to review the work of midwives to allow them to work more autonomously.

Keywords: job satisfaction, midwife, hospital, birthing centres